平成30年度　能美市立福岡小学校　学校評価計画

平成30年4月

重点目標（めざす姿）		具体的方策	主担当	【評価指標】<成果指標><努力指標><満足度指標>	【評価の根拠】 達成度判断基準
1	組織的な学校運営	①(校長ビジョンの具現化) 学校経営ビジョンの具現化を図るため，主任等を中心として，同僚性・専門性を活かし，常に**「チーム学校」として**全職員で協働し，**業務改善を図りながらPDCAが実働する**学校づくりをめざす。	教頭	<努力指標> **業務の見直しによる**今年度の重点的な取組について共有し，主任等のリーダーシップのもとで各部会**のロードマップをもとに，取組が**組織的，**効率的**に運営されている。	【教職員アンケート】 **取組が**組織的・**効率的に**運営されたという教職員の意識の割合 A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D：70%未満
		②(安全指導・危機管理) 安全対策や危機管理の指導力を高め，いじめ・不登校・**特別支援**等の課題には，組織的に迅速・的確に対応する。	教頭	<努力指標> いじめ・不登校に対し定期的な児童アンケートや面談等を通して早期発見し，問題には，関連機関との連携を進めながら，早期で適切な対応に努めている。	【児童アンケート】【教職員アンケート】 教師と児童，児童同士の良好な人間関係が成立し，危機的な問題には早期発見・早期対応に努めているという割合 A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D：70%未満
2	知（確かな学力の育成）	①(授業改善と学力の向上) 全ての子ども**の学びが深まるようゴールの姿と**系統性を意識して工夫・配慮された授業改善を行う。また，「学力向上ロードマップ」に従って組織的・継続的・積極的に学力向上に取り組む。	学習指導部	<満足度指標> **指導事項の系統性と**児童**の学びの自覚化を重視した**授業改善**を行い**，学力の向上が児童の実感となっている。 また，学力向上ロードマップの確実な実践に努めている。	【児童アンケート】【教職員アンケート】【保護者アンケート】 ・授業内容がわかるという児童・保護者の割合 ・学んだことをまとめたり振り返ったりする活動を通して学びを実感させている教職員の割合 A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D：70%未満
		②(基礎・基本の定着) 「きらめきシステム」等を充実・発展させ，計画的・組織的に検証と改善を重ね，基礎的知識・技能を定着させる。	学習指導部	<成果指標> 「きらめきシステム」が計画的・組織的に運営され，基礎・基本を定着させるものになっている。	【児童アンケート】【教職員アンケート】 朝学習でさらなる学習の定着を感じている児童の割合 「きらめきシステム」の効果が検証・改善され，基礎・基本の定着につながっていると感じる教師の割合 A：90%以上　B：80%以上　C：70%以上　D：70%未満 【福小漢字・計算テストの平均点】 A：90点以上　B：80点以上　C：70点以上　D：70点未満
		③(学び合い・言語活動，活用力の育成) 全ての教育活動で適切な言語活動や学び合い活動を充実させて，主体的・対話的な深い学びにつながる活用する力を育成する。	学習指導部	<満足度指標> **根拠や筋道を明確にして自分の考えを表現する言語活動を充実させ，互いの考えを比較したり，つなげたり，広げたりする学び合い活動で学習意欲を高め，思考力・判断力・表現力等の深化を図っている。**	【児童アンケート】【教職員アンケート】 学び合うことで充実感を味わい，考えの広まりや深まりを感じる児童と教師の割合 A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D：70%未満
		④(学力の検証) 学力調査の分析結果を共通理解し，分析から得た課題に迅速に取り組み，計画的に学力の向上をめざす。 また，新学習指導要領に対応した準備**・運用**を行う。	学習指導部	<努力指標> 学力調査の分析・考察による方策を各教科の指導に活かしている。	【児童アンケート】【教職員アンケート】 分析から得た方策を指導にいかし，学力向上に計画的に取り組んでいるという教師の割合 A：90%以上　B：85%以上 C：75%以上　D：75%未満
3	徳（豊かな心の育成）	①(積極的な生徒指導) 人間関係エクササイズ等で児童の自尊感情を高め，**QUの継続的，全校的な分析をもとに**親和的な学級をつくる。また，特別支援教育の充実を図る。	生徒指導部	<成果指標> 親和的な学級づくりが進み，自己肯定感や共感的な人間関係が醸成されている。	【児童アンケート】【保護者アンケート】【教職員アンケート】 児童一人一人が自己の役割を持ち，互いに認め合い，大切にされている学級と感じる3者の割合 A：90%以上　B：85%以上 C：75%以上　D：75%未満
		②(リーダー性の育成) 各種**縦割りの教育活動を通して，「あこがれ」につながる**高学年のリーダー性を高め，指導力を育成する。 また，環境保全やボランティア・奉仕活動にも取り組む。	生徒指導部	<満足度指標> 一人一人がリーダー意識を持ち，誰かの役に立つことの大切さに気付く。また，自分から気づいた「よいこと」を行動に移す意識が高まっている。	【児童アンケート】【教職員アンケート】 自己の役割を意識して主体的に取り組んだという児童の割合，また，リーダー性を育成するための手立てを工夫し推進しているという教職員の割合 A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D：70%未満
		③(道徳教育) 郷土愛・**感謝**をはじめとする重点項目を中心に道徳の時間を充実させる。また，豊かな体験を活かし，教育活動全体を通して心に響く道徳教育を推進する。	道徳教育推進教師	<努力指標> 道徳の公開授業をはじめ，計画的に授業実践を行う。また，教育活動全体で，体験的な活動を通して，重点項目を中心に，心に響く道徳教育を行っている。	【児童アンケート】【教職員アンケート】 道徳の時間に学んだことを日常生活の中で生かすことが大切と感じている児童の割合　また，重点項目を中心に心に響く道徳の授業実践に努めているという教師の割合 A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D：70%未満
		④(読書指導) 読書の量や質を高めるため，「読み聞かせ」「昼読書」「多読賞」など，読書活動のより一層の工夫・充実に努める。	学習指導部	<努力指標> 教科での並行読書や調べ活動での図書館活用が行われている。また，昼読書，家庭での読書活動の推進に努めている。	【教職員アンケート】【児童アンケート】 目標を達成するために努力したと思う教職員の割合 また，各学年のおすすめの本を読んだという児童の割合 A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D：70%未満
4	体（健やかな身体の育成）	①(基礎体力づくりと体力の向上) 同学年異学年との多様な遊びを通して，基礎体力を高める。また，「スポチャレ」や各種取組で目標を持たせ，粘り強く・楽しく運動に親しみ，体力を向上させる。	保健体育部	<満足度指標> 休み時間には，積極的に友達と仲良く遊んでいる。また，**個人や集団として**立てた目標に向かって意欲的に各種運動に取り組んでいる。	【児童アンケート】【教職員アンケート】 目標に向かって運動したという児童　及び　目標を持たせる基礎体力作りをすすめたという教職員の割合 A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D：70%未満
		②(安全指導の徹底) 体育活動・給食活動での安全対策・安全教育を徹底し，事故のない安全・安心の教育活動を確保する。	保健体育部	<努力指標> 安全指導を徹底し，けがや事故の防止に努め，児童の危機回避能力育成のための努力をしている。	【児童アンケート】【教職員アンケート】 安全指導の徹底と児童の危機回避能力の育成に努めたという教職員の割合 また，けがや事故に気を付けて活動できたという児童の割合 A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D：70%未満
		③(健康教育・生活リズムの確立) 自らの健康や生活に関心を持ち，進んでよりよい生活習慣・食習慣づくりを推進する。また，地域・保護者と連携して，家庭学習をはじめとする生活リズムの確立とネット対応に取り組む。	保健体育部	<成果指標> 「早寝早起き朝ごはん」「家庭学習強化週間」に積極的に取り組み，児童の生活リズム・学習習慣が整っている。	【児童アンケート】【保護者アンケート】 生活リズム・学習習慣を整えているという児童の割合 各取組を通して児童の習慣が向上したと感じる保護者の割合 A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D：70%未満
5	家庭・地域との連携	①(PTA活動のさらなる活性化) 保護者と連携して，PTA活動の活性化を図る。あいさつ等，社会性の育成にともに取り組む意識を共有する。	教頭	<満足度指標> PTA活動の趣旨が理解され，協働意識が高まる**とともに，学校行事やPTA行事に保護者が積極的に参加している**。また，児童の生活や学習の状況を理解し，より良い習慣育成のための家庭での指導・支援が適切に行われている。	【保護者アンケート】【教職員アンケート】 学校との連携を深めながらPTA活動が活性化したと感じる保護者の割合 A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D：70%未満
		②(コミュニティスクールの推進) 学校と地域が協働し，子どもを地域で支え育むため，学校運営協議会を充実させ，**地域の人材が積極的に学校運営に参画できる**コミュニティスクールを推進する。 家庭・地域のニーズを把握し，「開かれた学校」として地域や保護者に信頼される学校づくりを進める。	教頭・CS担当教諭	<努力指標> **地域人材の有効活用をはじめ**，校内外の課題を**効果的に**協議・**改善**するため「学校運営協議会」の運営の充実に努める。 また，多様な媒体で「開かれた学校」づくりについて適切に情報を発信する。	【児童アンケート】【教職員アンケート】 自分の町のいいところが言える児童の割合 学校からの情報発信・情報公開や地域の人材活用等「開かれた学校づくり」が進んでいると感じる教職員の割合 【学校運営協議会委員の意見】 CSディレクターを中心とする適切な学校運営が進んでいると感じる委員の意見。 A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D：70%未満

平成30年度　能美市立福岡小学校　学校評価最終評価

平成31年2月

重点目標（めざす姿）		2学期の取組状況	評価	今後の改善策（いつ・誰が・何を・どんなふうに・ねらう子どもの姿）	学校運営協議会による評価・感想
1	組織的な学校運営	【教職員アンケート】⑪100%↑ 校訓「誠実・自彊・規律」の見られる姿をゴールとし、「チーム学校」として学期ごとのキーワードを掲げ、重点的な取組のPDCAを試みてきた。運営委員会にてねらいや方針を協議し、3部会において各主任の指導・助言の下、ロードマップを確認しながら取組を進めた。	A	PDCAが機能するべく、各学期のキーワードを設定することは、年間の目標実現に向けたスモールステップとして分かりやすく、軸としてもぶれにくいため各部会の取組も方針等がたてやすく、全職員が理解しながら児童の成長につながる実践とすることができた。次年度はロードマップとアクションプランの関連性をより意識したの実践の展開や検証が求められる。	学力向上ロードマップを軸に職員がベクトルを一つにして取り組んだことが学校運営の大きな推進力となっている。 児童自身がより良い学校づくりについて主体的に考え取り組んだ「アクションプラン」の策定は意義深く、今後も伝統として引き継いでほしい。 今後は、ロードマップとアクションプランの連動を図り、子どもを中心とした学校ー家庭ー地域の連携を深め、「チーム学校」として組織力を高め、実働させてほしい。
		【児童アンケート】②83.3%↑【教職員アンケート】⑰100%↑ 2学期「一人一人を大切に」というキーワードのもと、児童会主催の人権集会を実施た。、各学級の課題と改善策を発表しながらいじめ等がない学校生活を目指す決意をし、「子どもが主役の学校づくり」の意識が高まった。その他、安全・安心な学校生活のための日常的なルールの徹底なども児童が主体となって全校に訴えかけるようサポートをしてきた。	A	「自己肯定感・有用感」が経年的な課題であるが、アクションプランの「子どもの取組」の内容を児童が策定したり、人権集会等で学級の課題を児童が自覚し対応策を考え、集会発表という場を通して共有化し全体の意識を高めたりするなど、児童の主体性を重視しながら取り組んできた成果を感じる。教師側も、毎学期末に自学級の状況をふり返り、改善に向けた次学期の取組の計画を立てるなどCとAの充実を図ったことも効果的であった。次年度も主体性の育成や見通しのある意図的な取組を充実させたい。 以上の取組をさらに充実させることで、「啓道の志」につながり、ひいては、それが、いじめの未然防止や自己有用感の高い児童・学校づくりにつながると信じる。	
2	知（確かな学力の育成）	【児童アンケート】⑥88.8%↑【教職員アンケート】⑤100%↑ 【保護者アンケート】②87.8%↑ 授業の最後にふり返る「学びの自覚化」の意識は、教師も児童も定着してきた。	A	今後は振り返る活動のさらなる充実に向けて、教職員間で教科のねらい・特性に応じたふり返りを幅広く紹介し合い、どの教科・どのねらいであっても児童が自分の学びを自覚できることを目指す。また、教師も児童のふり返りを活かして授業改善する意識を持つよう促していく。	子どもたちの将来のために、どんな力が必要かを考えて、基礎学力を系統的に積み上げてほしい。また、向上心を持って学ぶ気持ちの育成を重視してほしい。 そのためには、言語の力を鍛えることは有効と考える。思いや考えを書いたり話しあったりする喜びを味わわせてほしい。また、ふり返りの場を活用した授業改善にも期待する。
		【児童アンケート】⑱88.8%新【教職員アンケート】⑥100%↑ 福小漢字・計算テスト90点未満の児童には、主に級外が協力し、個別支援で対応し、クリアできるようにした。朝学習の内容はその時期の学習に必要な基礎基本など、児童の実態に応じた内容で取り組み、級外との2人支援体制も定着しつつある。	A	福小漢字・計算テストは、今後もこの体制を継続したい。朝学習は、2人支援体制で有効だった朝学習の実践を職員間で交流しあい、さらなる効果的な2人支援体制の充実を図っていく。	
		【児童アンケート】⑤85.3%↑【教職員アンケート】⑯94.1%(改) 「児童が自分の言葉で表現できること」を目指し、基礎言語技術トレーニングのプログラムを全学年最低9回取り入れた。また、学力向上プログラムから活用力向上として「学びを活かして書く」授業実践例を各学年に配付し、その実践例をもとに各学年実践を行ってもらうようにした。	B	言語技術トレーニングについては検証問題を準備して行い、トレーニングした力がついたか確かめ、ついていないと分かれば、再度繰り返しトレーニングさせ習得させていく。また、学力向上プログラムから活用力向上として「学びを活かして書く」授業実践例を実践してみた板書を写真等でファイリングして修正点等をメモし、他学年の先生が見ても実践できるようにする。	
		【児童アンケート】⑮72.1%↓【教職員アンケート】⑦87.5%(新) 1学期、学力調査の分析をもとに、児童の生きる力として「論理力」が必要であることを共通理解した。それを受け、論理力育成のために、まず教師が「ねらいを全員クリアさせる覚悟」、「児童が自分で言葉や文に表現できること」を意識しながら日々の授業を行うことを共有してきた。	B	2学期末の5年生の評価問題分析をもとに、3学期意識して取り組むことを確認した。1学期と全く同様であったが、児童に必要な力・教師が意識しなければならないことは再認識できた。今後も職員会議等で再度意識ができるよう、共通理解・共有したことを確認していく。	
3	徳（豊かな心の育成）	【児童アンケート】⑯91.6%→【保護者アンケート】⑦83.6%↓【教職員アンケート】⑰100%↑ QUを活用して、各学級の状況を分析し二学期、三学期の学級経営方針を立てた。それぞれの学級の状況に応じた学級経営ができ、児童は落ち着いた学校生活が送れていた。	A	QUの結果を見ると、どの学級も良い方向へ進んでいる。よりよい取組の継続と積み重ねを意識して、次年度へ進級させるという視点で各学級の経営を行う。また、一年の学級経営を総括し、次年度への申し送りを作成する。	心の成長は「できるできない」で評価できるものではなく、また、目に見えないからこそ大切にしなければならない。本校のように縦割り清掃や遊びを仕組むことで、リーダー性や思いやり、あこがれの気持ちの育成に努めてほしい。 家庭・地域においても縦のつながりを意識した取組を行ったり愛情を感じるあいさつや声かけを工夫したりすることで豊かな心の育成につなげたい。 読書についても質の向上を狙うことで、言葉の力や心の醸成につなげてほしい。
		【児童アンケート】⑩87.4%↑【教職員アンケート】⑨100%(改) 縦割り清掃の取組を足掛かりに、児童会や各委員会が学校の様々な問題や活動を主体的に行うように、取り組むことができた。先生方が意識的に意見や意欲を大切にし、児童の活動を見守り、補助できていた。	B	どの委員会の6年生も「自分たちの学校は自分たちでよくしていく」という意識の下、積極的に活動することができている。その姿を5年生がしっかりと受け継ぎ、次年度の発足に向けて意欲を持たせる。	
		【児童アンケート】⑪81.9%(改)【教職員アンケート】⑫100%↑ 一学期に引き続きゲストティーチャーを招き授業を行った。校内の道徳掲示で保護者にも授業参観時等に見てもらった。また六年生の授業を公開授業とし教職員間で道徳の授業の進め方の共通理解をはかった。	B	教職員間で道徳の授業の進め方の共通理解をはかったことで、教職員の意識は高まった。しかし、児童の日常生活の中で道徳を活かすことを意識している児童が少なかったので、児童の意識を高めるために、児童の自己肯定感を高めるような価値づけを道徳の時間だけでなく、日常生活の中でも行っていく。	
		【児童アンケート】⑫74.2%↓【教職員アンケート】⑬87.5%↑ 11月の読書月間で行った朝読書では、児童だけでなく教職員も読書に取り組み、全校的に読書に向かう意欲が高まった。一学期同様、高学年の読書量が多く、また、低学年の貸出冊数も増えている。授業における並行読書の利用も増加し、本に触れる機会が多くなっている。	B	多読賞の取組では、学年に応じて取組方を変える。低学年は、読書への意欲づけとして、読書の貸出数を意識させる。中学年では、多分野にわたる読書を推進する。高学年は、本のページ数を意識させ、絵本から文学作品などへ読書の内容を充実させる。児童の読書への意欲を継続させながら、今後は読書の質を高めていく工夫をしていく。	
4	体（健やかな身体の育成）	【児童アンケート】⑬90.2%↑【教職員アンケート】⑭100%↑　鉄棒運動では、各学年の目標以外に全学年の共通目標として逆上がりチャレンジを行った。達成すべき目標が明確であることが、「目標を持って取り組めた」と感じる児童の増加に繋がった。先生方も同様に、教えなければいけないことが明確なので、目標を提示しやすかったと考える。	B	目標を明確にして取り組むことが定着してきたので、「自分の目標を達成するために工夫して運動に取組んでいる」など一歩前進した目標設定をする。	各自が目標をもって運動に取り組んでいることは素晴らしい。家庭での会話につながると、子ども自身の肯定感の向上や学校の取組の理解も進むので発信の工夫をお願いする。 運動に適した準備体操の工夫があると技能の向上やけが防止にも効果的ではないかと考える。 今後は、学校だけでなく、家庭・地域でも生活習慣に目を向け、メディアコントロールや早寝早起き朝ごはんの推進にも協働していけるようにしたい。
		【児童アンケート】⑭95.8%↓【教職員アンケート】⑮100%↑ 持久走練習や持久走大会では、コミュニティスクールの協力を得て、安全に運動できるよう見守りを増やすことができた。授業中の場の安全については、職員が当たり前に取り組んでくれるようになった。児童も、骨折などの大きな怪我もなく、安全に運動できるようになってきている。	A	安全な場の設定の仕方、人の配置などを提案文書や申し送りとして残し、誰でも同じように取り組めるようにするとともに、共通理解を図って、学年や担任が変わっても同じように取り組めるようにする。	
		【児童アンケート】⑦82.6%↑【保護者アンケート】④86.0%↓ 3年生以上を対象に帰宅以降の自分の生活を1週間ふりかえってから早寝に取り組んだ。自分の現状に合わせた目標を立てたため、目標の就寝時刻が22時を過ぎる児童もいた。学校保健委員会では目の健康からメディアとの付き合い方を見直すきっかけとした。	B	高学年になるにつれて就寝時刻が遅くなる傾向にあるため、継続した取組みが必要。まずは、自分の生活を振り返り、達成可能な目標を少しずつクリアしていくことで長期的には規則正しい生活習慣の確立を目指す。そのために、生活習慣による疾病のリスクや心身への影響といった情報提供を児童、家庭、地域へ発信していく。	
5	家庭・地域との連携	【保護者アンケート】⑤70.8%↑⑩87.9%↑【教職員アンケート】⑱100%↑ どの授業参観の参加率も120%超で、親子講演会や学校保健委員会、地区懇談会等も参加状況は良好である。アンケートは該当問すべて値が上がっており、特に挨拶については5%近く上昇した。ラジオ体操の取組や各家庭での声かけ、CS委員等からの積極的な挨拶が成果をもたらしたと考えられる。	B	CSや各町内会長の協力もあり、本年度より各地区のラジオ体操に、地域の大人も参加し、積極的に挨拶したり、子どもが大人の顔を覚えることで安心して地域内で過ごせるようにしたりするなど、子どもと地域のつながりという点では工夫を施した結果が成果として現れていると考えられる。 次年度のラジオ体操についてPTAも積極的に考え、主体的に参画する意識が拡充するよう、また町内会長との連携についてもCS等を中心に、早めに取り組めるよう見通しを立てておく。	学校だよりとコミュニティスクールだよりの一体化により、それぞれの立場からの「保護者」「地域」への発信があり、取組の内容等を以前よりも知ってもらえたと感じる。 本年度はふれあいラジオ体操を通じて、町内会（長）との連携や児童によるラジオ体操カード作り、地域の大人との関係づくりも始まり、大変意義があった。今後は、地域や学級PTAとの連携について具体的に取組をすすめていきたい。 自分の町のいいところが言える児童の割合は高いとは言えず、地域住民としての工夫が必要と考える。
		【児童アンケート】⑰73.4%↓【教職員アンケート】⑲100%↑ 児童アンケート値が下落し、教職員の値が上昇している。児童の地域学習の深まりや地域の方への感謝の気持ち等がさらに求められる。CS各委員は熟議を通して積極性が増し、「ラジオ体操を活用した地域の活性化」の取組が実現した。さらには防災図上研修の指導をするなど参画意識は向上している。	B	クラブ活動や読み聞かせなど様々な活動において地域の人材が活用されている。これまでは見守りや本を読んで終わり、というような感じであったが、感想を求めたり、本に関する問いを出し考えさせたりするなど双方向の活動を意識しており、少しずつ浸透してきている。また、本年度は地区懇談会に各町内会長に参加を求めたり、町内会長とCSの懇談会を実施したりするなど、学校やPTAと地域とのつながりの強化を図ってきた。ラジオ体操の取組も含め、今後も継続しながらよりよい実践となるようCSをより活性化させたい。また、地域における更なる人材の発掘と確保に向け、地域内での呼びかけを強化する。	